



## 「外為短期投資家動向調査」結果

<第18回調査>

2010年11月29日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資家動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2010年11月16日(火)13:00~2010年11月23日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。  
今回の有効回答数は、4410件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

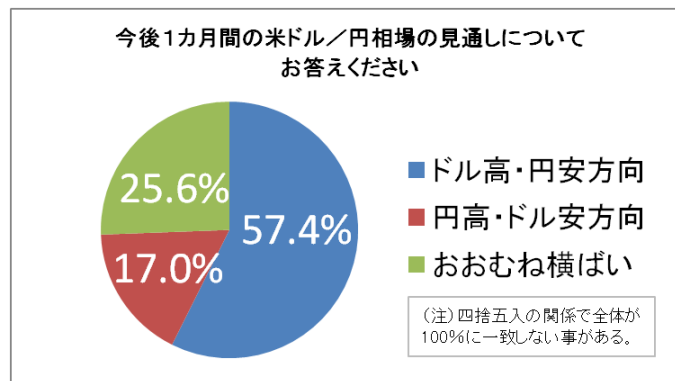
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第18回調査結果略報：ドル円予想DIは大幅にドル高・円安方向へ】

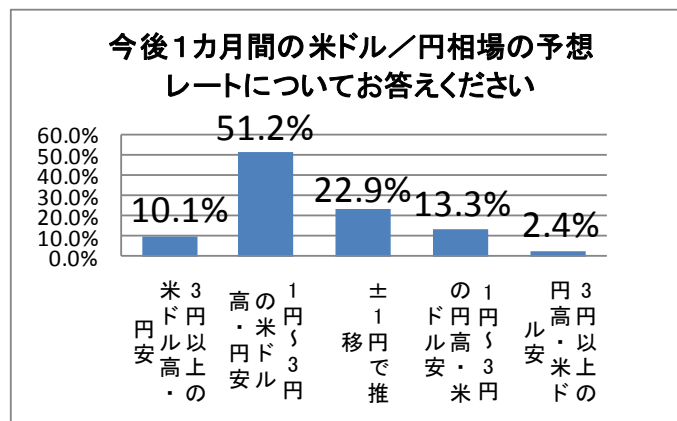
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が57.4%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が17.0%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+40.4%ポイントとなり、前回調査の▲0.4%ポイントの円高と円安を予想する向きがほぼ均衡する結果から、ドル高・円安方向へと大きく変化した。調査期間中のドル円相場は、82円台後半からじりじりと値を上げ83円台後半まで上値を伸ばす展開となった。ただ、市場ではドル円相場については、ファンド筋によるドル売りポジションの手仕舞いによる巻き戻し等、この時期特有の要因が指摘されておりドル高・円安トレンドへと反転したと見るには時期尚早との声も聞かれる。よってドル高・円安方向を予想するFX投資家が急速に増えてきてはいるが、先行きの為替相場予想をする上では次回以降の調査結果が、大きな意味を持つように思える。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

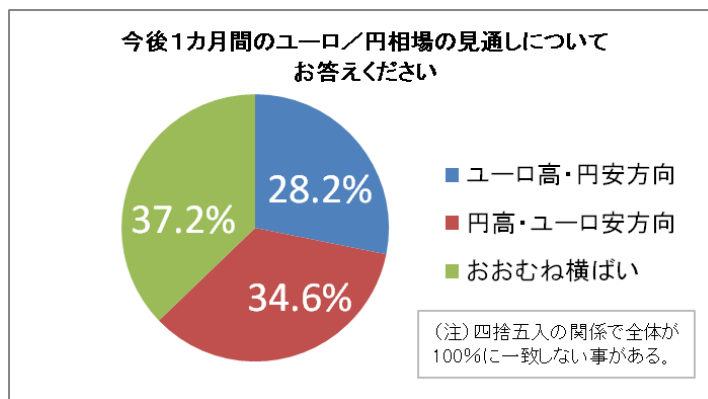
「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が51.2%と最も多く、次いで「±1円で推移」が22.9%、「1円～3円の円高・米ドル安」が13.3%、「3円以上の米ドル高・円安」が10.1%、「3円以上の円高・米ドル安」が2.4%の順になった。ヒストグラムの形状は、問1でドル高・円安方向を予想する向きが半数以上を占めた結果を、反映するかのよう描写されている。前回の調査では、円高と円安を予想する向きがほぼ均衡する結果となっていたが、今回についてはFX投資家層のマインドが、はっきりと円安方向へと転換したことが見て取れる結果となった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様が生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

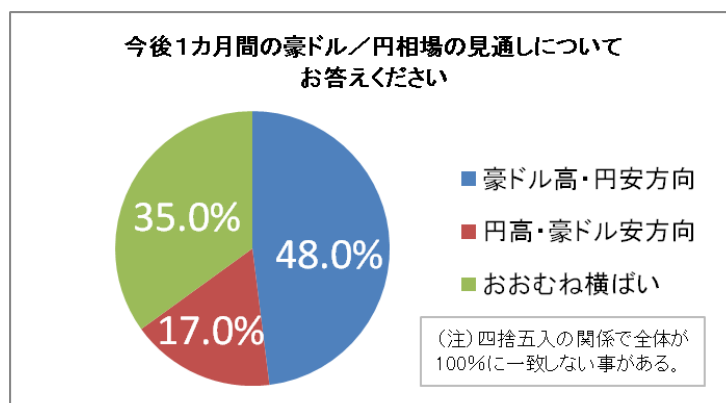
### 問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が28.2%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が34.6%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲6.4ポイントとなり、前回調査の▲8.0ポイントとほぼ変わらない結果となった。調査期間のユーロ円相場は、112円台前半から上昇し115円台目前で上値の重さを確認し下落する展開となった。投資家の円高・ユーロ安方向を見る向きがやや上回っているのは、アイルランド問題の深刻化を受けてユーロドルは大幅に下落したものの、ドル円の上昇がユーロ円をサポートしたことが影響したと言える。



### 問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が48.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が17.0%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+31.0%ポイントと、今回も引き続き豪ドル高・円安方向になり、かつまた前回調査の+13.1%ポイントからも拡大した。調査期間中の豪ドル円相場は、81円台前半から83円ちょうどまで上昇した。豪州が11月初旬に政策金利の引き上げを再開しており、FX投資家層の豪ドル円に対する強気のセンチメントが一段と高まったようだ。

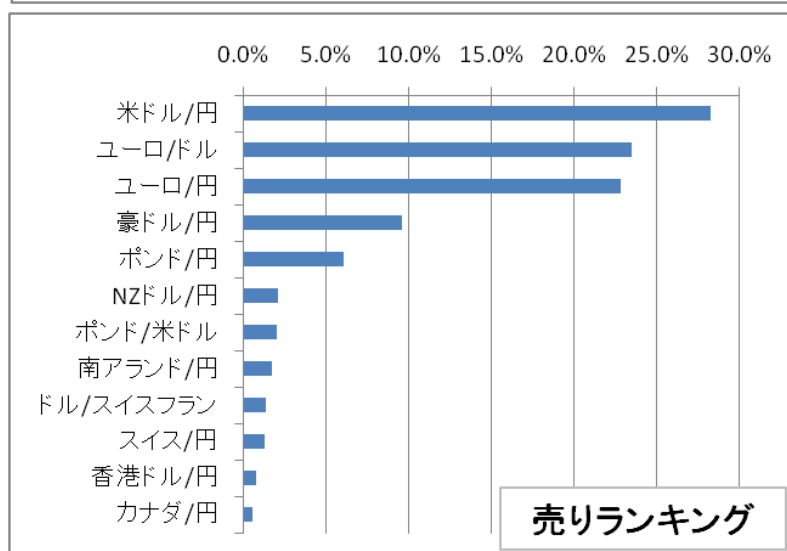
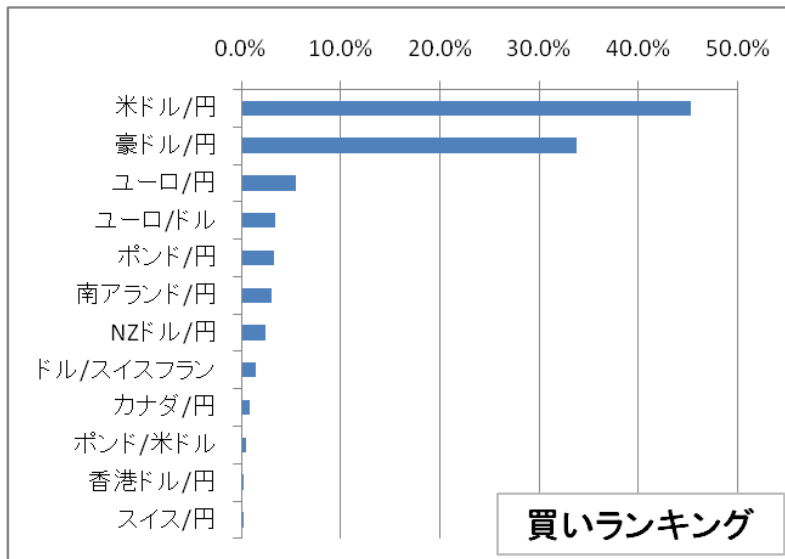


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル円(45.3%)、2位豪ドル円(33.8%)、3位ユーロ円(5.4%)、4位ユーロドル(3.4%)、5位はポンド円(3.4%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル円(28.3%)、2位ユーロドル(23.4%)、3位ユーロ円(22.8%)、4位豪ドル円(9.6%)、5位ポンド円(6.0%)となった。「買い」で注目の通貨ペアは、2ヶ月連続で米ドル円が1位の座をキープし、回答割合も前回の42.8%から45.3%へとさらに増加した。一方、「売り」で注目の通貨ペアでは、5ヶ月連続でドル円が首位の座をキープした。ただ、その回答割合は前回の36.1%から28.3%へと減少している。また2位のユーロドルとの差も4.9%と接近している。

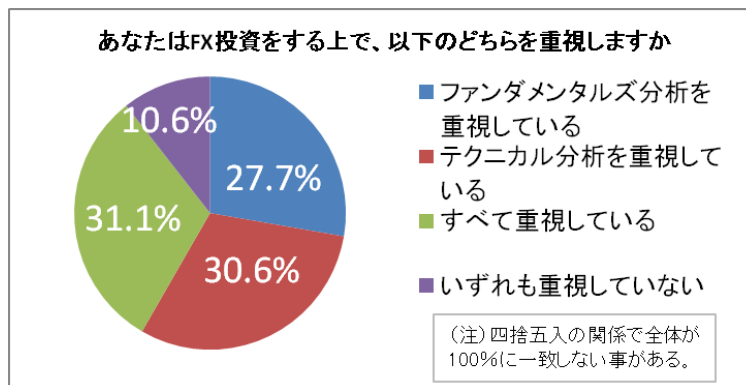


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

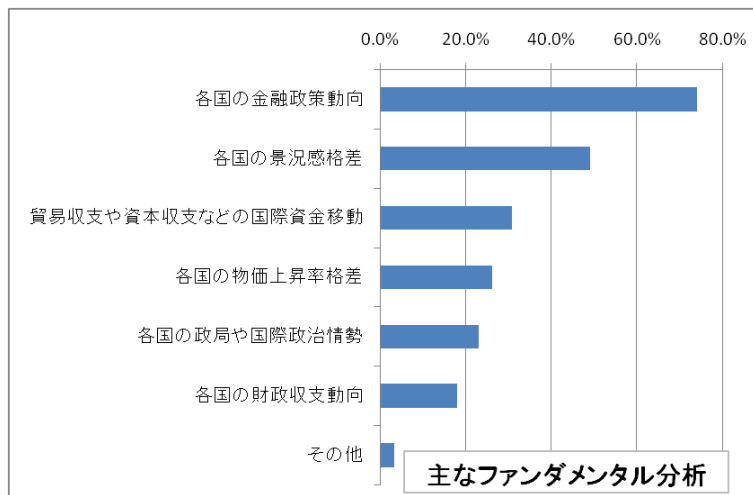
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が30.6%であったのに対し、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が27.7%と、前回調査から逆転しテクニカル分析重視派がやや上回った。また、最も多かった「すべて重視している」は前回調査と同様ではあるが、その回答割合は31.1%（前回35.5%）と減少している。FX投資家が投資戦略を組み立てる上で、ファンダメンタルズ・テクニカルの両方を重視する傾向は、変わらないものの今回調査においては、テクニカル分析重視派の割合が若干上回る結果となった。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?**

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場動向要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(74.0%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(49.0%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(30.8%)」、「各国の物価上昇率格差(26.2%)」、「各国の政局や国際政治情勢(23.0%)」の順に続いた。11月初旬に最も注目されていたイベントである米連邦公開市場委員会(FOMC)での金融の量的緩和第2弾(QE2)を経過したが、今月も調査期間中の市場のテーマは、通貨ペア2国間の金融政策の対比がメインとなり、前回調査に続いて8割弱のFX投資家が各国の金融政策動向に注目していることが示された。

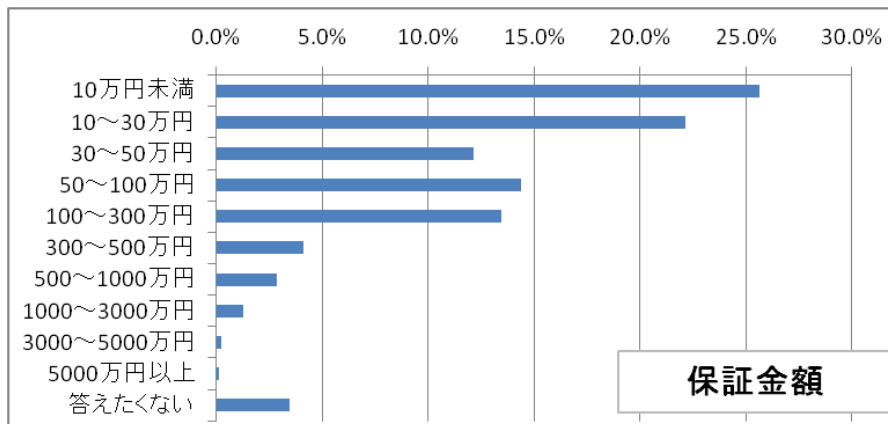


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

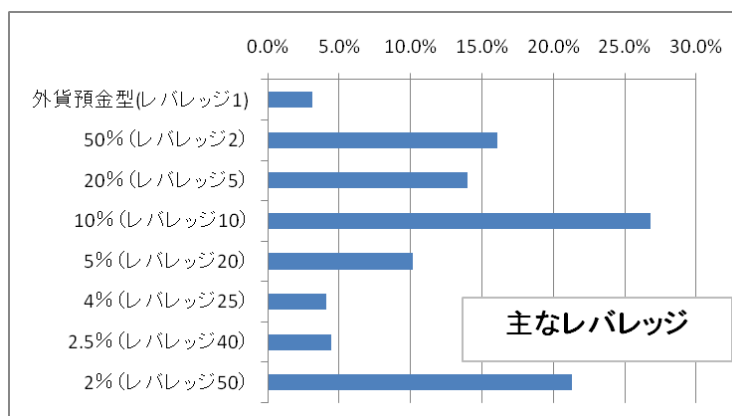
### 問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満(25.7%)」と答えた割合が最も多かった。以下、「10～30万円(22.2%)」、「50～100万円(14.4%)」、「100～300万円(13.4%)」、「30～50万円(12.2%)」となった。50万円以下の保証金で取引をするFX投資家が半数以上を占めている傾向は変わらないが、前回首位の「10～30万円」が2位に後退し、前回2位の「10万円未満」が首位となった。これは小額の保証金で取引をしているFX投資家層が、昨今の円安方向に推移しつつある市場実勢の中で再び参入し始めていることを裏付ける結果となった。



### 問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「10%(レバレッジ10)」と答えた割合が26.8%と最も多く、以下、「2%(レバレッジ50)」が21.3%、「50%(レバレッジ2)」が16.1%、「20%(レバレッジ5)」が14.0%、「5%(レバレッジ20)」が10.1%と続いた。前回に引き続き最も多く利用されている「10%(レバレッジ10)」は、回答割合もほぼ同じであったが、次に利用されているレバレッジが、再逆転となり「50%(レバレッジ2)」から「2%(レバレッジ50)」へ入れ替わる結果となった。ただ、それ以外の結果については、回答割合も含め前回とほぼ同等の結果となり、FX投資家層の間では、本年8月のレバレッジ規制以降の運用方法が確立されてきたということが見て取れる。



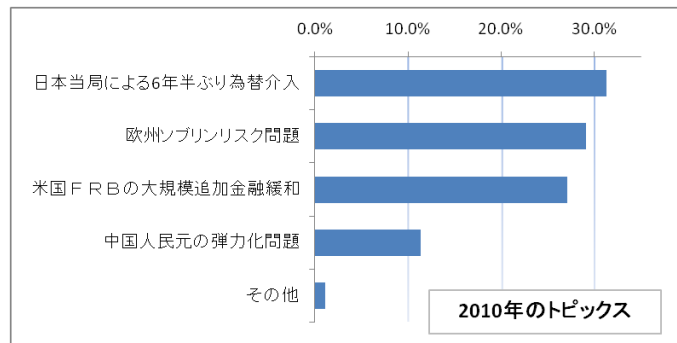
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



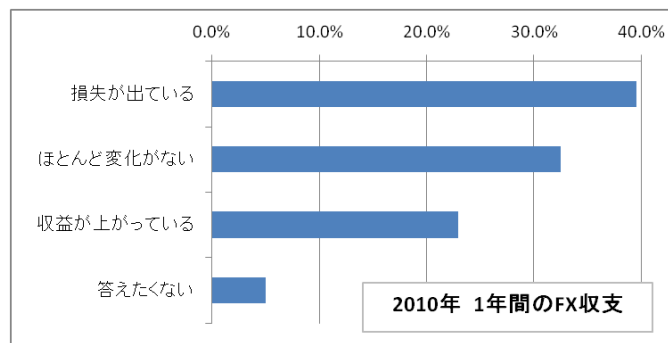
### 問10: 2010年を代表する為替市場のトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、「2010年を代表する為替市場のトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「日本当局による6年半ぶり為替介入」(31.3%)が最も多く、以下「欧州ソブリンリスク問題」(29.1%)、「米国FRBの大規模追加金融緩和」(27.1%)、「中国人民元の弾力化問題」(11.3%)、「その他」(1.2%)となった。今年の為替相場を振り返れば、「欧州ソブリンリスク問題」「米国FRBの大規模追加金融緩和」がトピックとして順当なところであるが、「日本当局による6年半ぶり為替介入」が僅差であるが首位となったことが興味深い。やはり久しぶりということと、1日の円売り介入規模としては過去最大(2.1兆円)となったこと、3円近く上昇したその瞬間のプライスアクションがFX投資家にかなりのインパクトを与えたようだ。また、「その他」と回答した中では、「15年ぶりの円高」や「通貨安戦争」、「レバレッジ規制」等が目を引いた。



### 問11: 2010年これまでの約1年間を振り返り、あなたのFX投資の収支についてお聞かせください。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、「2010年これまでの約1年間を振り返り、あなたのFX投資の収支についてお聞かせください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「損失が出ている」と答えた割合が39.6%、「ほとんど変化がない」が32.5%、「収益が上がっている」が23.0%、「答えたくない」が5.0%という結果になった。損失が出ているまたはほとんど変化がないと回答した割合が、およそ80%を占めており、収益が上がっているが約20%にとどまった。2010年10月までのドル円相場で言えば、月足のローソク足を見ると5月より6ヶ月連続で陰線を描写しており、外貨の買い持ちは志向するFX投資家層がかなり苦戦しているものと推測される。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第18回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、まだ開始後1年程度ということもあり、前年同期との比較に十分な調査結果の蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を十分に提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月									
	1月									
2月										
3月										

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com